

陵墓指定地

息長広姫陵古墳

30代敏達天皇(538~585)の皇后息長広姫の陵墓に指定されています。広姫は息長真手王の娘で、孫の舒明天皇、その子の天智・天武天皇が即位したため、広姫の子彦人大兄皇子は「皇祖大兄」と呼ばされました。このことは、息長氏の勢力拡大の大きな要因となりました。

元禄9年(1696)、光運寺本堂改築のためにこの地を開墾した際に、石柳と石棺が発見されました。この発見と『延喜諸陵式』の記載(息長墓 舒明天皇之祖母、名曰広姫、在近江国坂田郡)により息長広姫の陵墓に比定されることになりました。

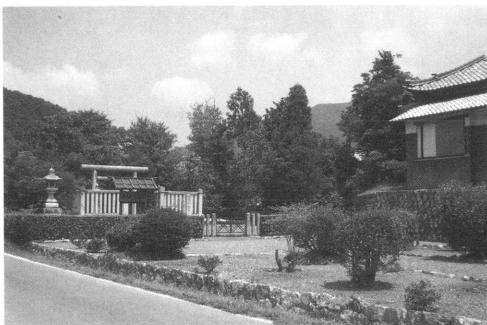
また、近年には陵墓に隣接する光運寺本堂裏の基壇石垣が改修されたときに、多数の埴輪が出土して本堂基壇が古墳墳丘の一部であることがわかりました。埴輪は5世紀末頃のものと考えられ、家形石棺の年代とほぼ一致します。このことから、光運寺本堂付近にあった古墳は、5世紀末頃のもので、広姫の時代(6世紀後半)とは年代的に相違することが指摘されています。旧坂田郡域で6世紀に下る前方後円墳は米原市近江地域の息長古墳群でしか確認されていません。

光運寺本堂の南側にも陵墓参考地として1基の古墳がありますが、これは培塿だと考えられています。

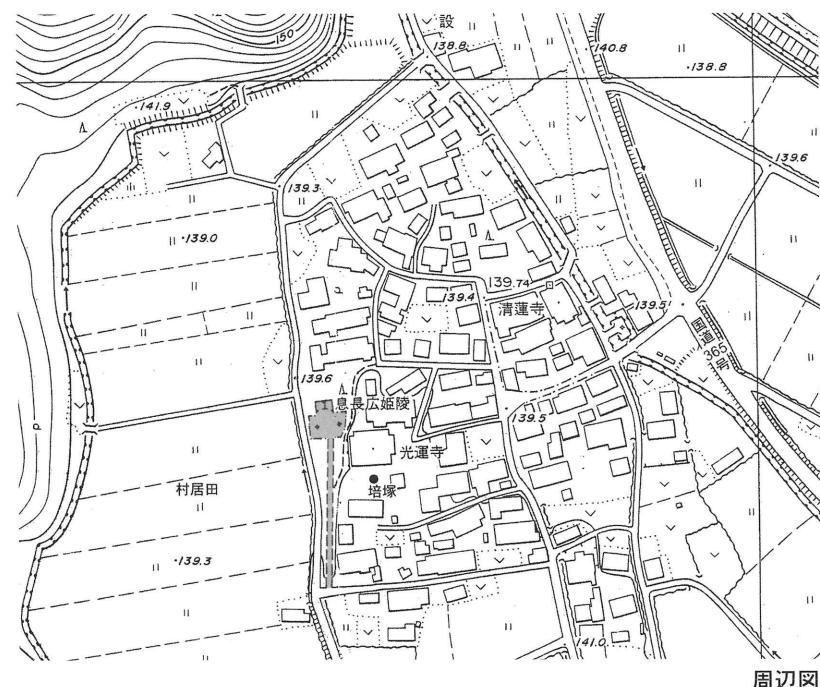
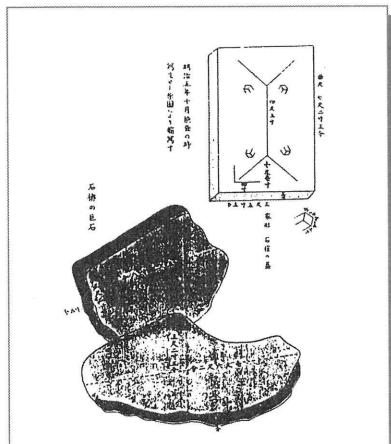




培塿

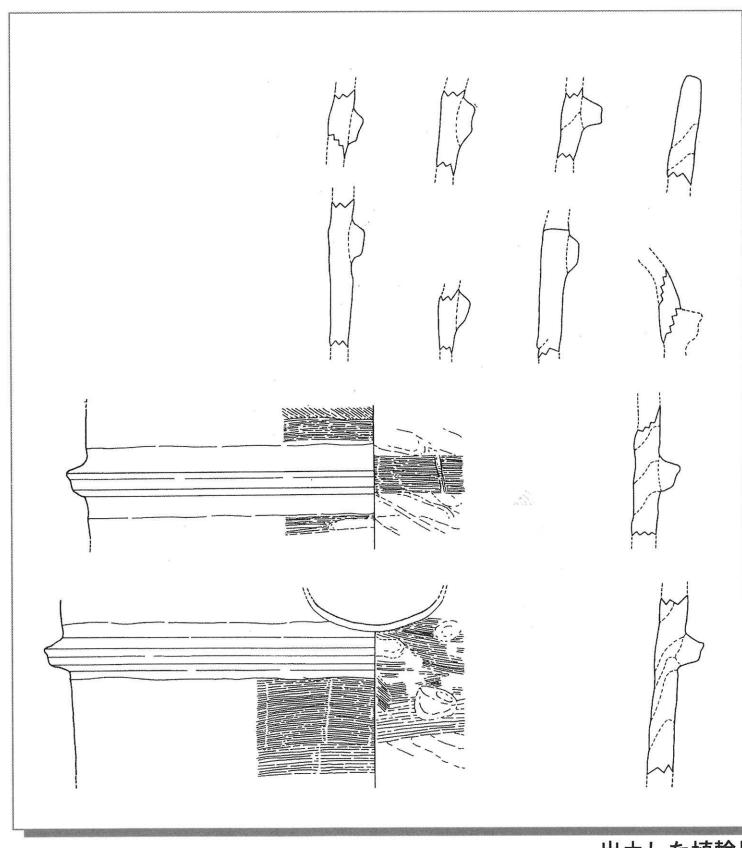


光運寺と息長陵

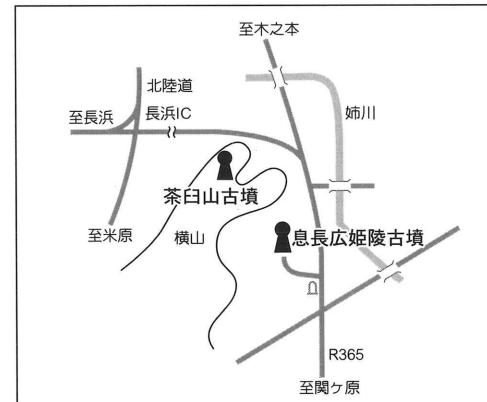


周辺図

明治5年の検査のときの古図の写し(左)によると、石棺は家形石棺の蓋らしく、長さ約2.19m、幅約1.07m、高さ約0.48mで、天井部の平坦面がなく、天井斜面部に4基の繩掛突起が付いています。古い形式の家形石棺とみられます。石槨の構造は不明ですが、2枚の板状の石材が図示されています。



出土した埴輪片



陵墓指定地・息長広姫陵古墳

■ 所在地 滋賀県米原市村居田

■ アクセス JR北陸線長浜駅から「伊吹登山口」行で「村居田」バス停車。徒歩5分。

米原市教育委員会

滋賀県米原市長岡1206番地 TEL.0749-55-8106

平成20年度 埋蔵文化財活用事業